

## 障害者支援施設 清風園

### 1 施設を取り巻く現状と課題

当園は、障害者支援施設、グループホーム、生活介護事業所及び相談支援事業所を大田市で運営しており、市内唯一の障害者支援施設として、自宅での生活が難しい重度障がい者の受入れという重要な役割を担っているが、大田市でも地域生活支援拠点の整備が進められる中、緊急時の受入れ、レスパイトケアなど短期入所にも一層力を入れて取り組んでいきたい。特に、障がい児の短期入所利用について、大田市内に事業所が不足しておりニーズの増加が期待できるが、障害者支援施設における障がい児の受入れについて周知が不十分であり、検討を進める。生活介護については、利用者の意思決定支援を促進し、選択肢や活動範囲等を広げるとともに、利用者に選んでもらえる日中活動を実施する。グループホームでは、利用者の高齢化による身体機能の低下が進み、介護保険施設等への移行を余儀なくされるケースが増加しているが、新たな利用希望者が少ない現状があるため、24時間の支援体制を整えているグループホームとして、地域での生活を希望する方を幅広く受け入れていく。

収入の安定確保について、施設入所支援では、待機者は20名を超えてはいるが女性の申込者が少なく、将来的に入所する必要が生じた場合に備えて申込みを行うケースが半数程度と多い。現入所者の重度高齢化が進み、入院や退所による空床が増加しており、次期入所候補者を複数名確保しておく必要がある。生活介護及びグループホームについてはニーズ把握が難しいが、大田市内外の相談支援事業所等への意向確認等を実施し、新規利用者の確保に努める。

職員の確保も大きな課題である。調理員及び世話人の欠員は埋まらず、食事提供に支障を来している。また、向こう5年間で定年退職を迎える支援員（準職員及び非常勤職員）が複数名いるが、大田市における福祉施設介護員等の有効求人倍率はフルタイムが12.5倍となっており、事業所間で競合する状況にあるため、シルバー人材の活用、業務の切分けといった対策が必要である。また、利用者の重度高齢化やニーズの多様化によって職員の負担は増してきており、身体的負担から気持ちのゆとりを感じにくくなっていることが懸念される。身体的負担の軽減につながる福祉用具等の導入、業務改善による生産性の向上等に加え、職員の精神面へのサポートが重要である。

施設運営に当たっては、理念、方針、事業計画等について、様々な障害を持った利用者やそのご家族、後見人、地域関係者等に丁寧に伝え、清風園への理解を深めるとともに信頼を高め、地域に開かれた施設として役割を果たしていきたい。

## 2 施設の実施策と取組の方向性

### (1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

#### ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	障がいの理解の促進と次世代の担い手への啓発
現状と課題	大田市の障がい者計画に基づく障がいのある人に対する理解の普及・啓発の取組の成果もあり、障がいに対する理解は、徐々に深まりつつある。しかし、知的障がい者への長年の偏見や障がい者施設に対する地域の認識は薄い。各関係機関と連携を図りながら、障がいに対する理解を深め、次世代の若い人たちが興味を持ち、将来的に職業としての選択肢に繋がっていくよう働きかけていく。
取組の方向性	① 利用者のアート作品を大田市内の公共施設等に展示させてもらい、障がいについて知ってもらう機会を作る。(変更) ② 若い世代に施設への理解を深めてもらえるよう中学校や高校に対して積極的に働きかけを行う。

実施施策	福祉人材の確保
現状と課題	安定的にサービスを提供する上では、職員の確保が不可欠であるが、現在、欠員が続いている状況である。福祉職場の説明会やハローワークを通じて職員の募集を継続的に取り組むとともに、職員を通じてチラシの配布や紹介をお願いしているが、十分な確保には至っていない。
取組の方向性	① 法人 PR チームと連携し広報活動を強化するとともに、地域のイベント等に参加し施設の認知度を高める。(変更) ② 福祉職場の説明会等に積極的に参加し、施設見学等の希望があった場合は幅広く受け入れる。(変更) ③ 定年退職を控える支援員(準職員及び非常勤職員)について、用務員、世話人等での継続雇用について個別に検討する。(新規)

#### イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	専門性の向上
現状と課題	職員個々の経験が優先され、専門知識や技術に裏付けされた支援が実践されていないことが多い。また、身体機能が低下した利用者が多いが、福祉用具が不足しており、その選び方、使い方について学びを深める必要がある。 また、着任時研修及び採用時研修について、新任者のニーズを充足する研修内容となっているか、検証が不十分であり、採用した準

	職員候補者の育成計画についても、内容等の再検証が必要である。
取組の方向性	<p>① 食事、入浴、排せつ等の介護技術や障がい特性について知識を再確認し、定期的に振り返りを行いながら確実に習得することで個々の能力の向上を図る。</p> <p>② 厚生センター晴雲からセラピストを派遣してもらい、利用者の状態に応じた福祉用具の選び方、使い方について学ぶ（変更）</p> <p>③ 異動してきた職員や新たに採用した準職員の研修を見直し、計画的に職員の育成ができるよう育成体制を充実させる。</p>

実施施策	活力あるチームづくり
現状と課題	会議は開催しているものの報告に終始しており、職員同士の闊達な意見交換に至っておらず、チーム力が高まる体制になっていない。また、広く職員から意見を吸い上げる仕組みがなく、情報が伝わっていないことへの不満や批判が聞かれる。
取組の方向性	<p>① 正規職員に加え、準職員の支援員についても職場内 OJT を実施し、職員ごとの役割分担を明確にして、チーム力を向上させる。（変更）</p> <p>② ユニットチーフ会議を設置し、ユニット間の情報共有を強化する。また、ユニット会議に管理職やサービス管理責任者が出席し、意見、提案、要望等職員からの聞き取りを行う。（変更）</p>

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	お互いを大切にす職場風土の醸成
現状と課題	職員間で出来ないことばかり捉えがちで、認め合うことや褒め合うことが少ない。そのため、人間関係で悩みを持つ職員も少なくない。職員間でお互いに良いところやできることを強みとして認め合える環境を作り上げていく。
取組の方向性	<p>① お互いが褒め合う、認め合う風土を作るために、その方法を検討し実践することで、職員の捉え方が変化し安心して働き続けることができる環境を作る。</p> <p>② 臨床心理士によるカウンセリングを定期的開催する。（変更）</p>

実施施策	コミュニケーションの活性化
現状と課題	利用者の状態が変化する中で、質の高い支援を提供するためには、職員間や他部署との連携は不可欠だが、お互いの業務の状況が見えないと「やってもらえないこと」ばかりが目につくようになり、多

	職種での連携の難しさが感じられる。
取組の方向性	① 多職種で話をする機会を意図的に作ることで、交流を深めコミュニケーションの活性化を図る。 ② 男女の支援員間における協力体制を強化する。(変更)

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	業務改善姿勢の定着と生産性の向上
現状と課題	施設の職場風土として、決められたことに対して、真面目にコツコツと取り組めることが強みである。反面、現状の課題に対しては、業務を改善する姿勢や新しいことに取り組む積極性に欠けている。
取組の方向性	① 各種マニュアルの内容を確認し、実態に即したのに見直すことで、業務の統一化を図る。 ② 業務改善提案の仕組みを作り実践することで、業務改善の姿勢が定着し、職場風土として根付いていく。

実施施策	こころと体の健康管理
現状と課題	利用者の重度高齢化やニーズの多様化によって職員の負担は増してきており、身体的負担から気持ちのゆとりを感じにくくなっている。また、日々の支援において感情をコントロールしなければならない場面も多く、感情労働であることを理解して健康管理に取り組む必要がある。
取組の方向性	① 管理職が職員と定期的に話す機会を設け、本人の思いや考えに耳を傾けることでストレスの軽減を図るとともに、相談しやすい雰囲気作りに努める。(変更) ② 臨床心理士によるカウンセリングを定期的で開催するとともに、職員自身によるセルフチェックを実施する(変更)

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	高齢化に伴う機能低下への対応
現状と課題	現在、施設入所においては60歳以上の利用者が6割を超え、高齢化への対応が喫緊の課題である。利用者は、障がいの特性による老化や加齢に伴う心身の機能低下が見られ、従来の知識に加え、介護知識や技術が必要になり、支援の方法を見直していくことが求められている。 また、利用者の高齢化に伴い、家族も世代交代が進んでいる。「親

	亡き後」の高齢期の生活について、最良の選択を家族・後見人と考えていく必要がある。
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 障がいの特性や高齢化に対する知識や技術を習得し、多職種で連携を図りながら支える体制を作る。</li> <li>② 利用者や家族の意向を踏まえ、利用者の心身の状態を勘案しながら、介護保険を含めた「住まい」を検討し、最良な選択ができるように機会を保障する。</li> </ul>

実施施策	利用者に選ばれる日中活動の実施
現状と課題	利用者の日中活動や余暇時間の過ごし方は、選択肢が少なく、画一的であり、また、その記録も少ない。利用者に応じた個別の支援を検討する上でも、記録を充実し分析しながら、それぞれの状態に適した過ごし方を検討する必要がある。
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本人の出来ることや強みを把握し、利用者が興味を持って楽しく取り組めるよう、日中活動と記録の充実を図る。</li> <li>② 本人の年齢や能力に応じた適正な環境の中で日中活動に取り組めるよう、日中活動のグループ分けや活動場所について検討し、活動の活性化を図る。</li> </ul>

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	意思決定支援の促進
現状と課題	<p>利用者の意思決定の場面で、職員が利用者本人からの言葉や訴えがないと気持ちや想いを表すことができないと思い込んだり、決めつけたりすることがある。また、利用者自身の経験不足や選択する機会が少ないことで、選択肢が固定化してしまう場面も見られる。</p> <p>身近な生活場面を通じて、利用者本人が様々な体験をしたり、気持ちを伝える機会を増やしているが、社会生活においても本人の意思表出を増やし、職員がその思いを汲み取ることが出来るように支援力を高めていく必要がある。</p>
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者が意思表出を増やすことができる具体的方法を学ぶとともに、利用者の能力をアセスメントし、個別支援計画書に反映させることで、共通認識を持ってサービスを提供する。</li> <li>② 日常生活場面や行事等の中で様々な経験や選択する機会を確保することで、利用者に意思表出してもらえらる機会を設けるとともに、研修等をとおして意思決定支援への職員の理解を深める。(変更)</li> </ul>

実施施策	効果的な事故防止活動
現状と課題	令和5年度に事業団の事故発生防止のための指針が改正されたが、防げる事故を徹底的に防ぎ、防げない事故による損害を軽減するという改正の目的に基づいた再発防止策の検討が不十分である。
取組の方向性	① ヒヤリハットの重要性を理解し、報告数を増やすとともに、報告された内容から本人の行動の傾向や生活場面で留意すべきことを分析し、共有することでリスク管理に繋げる。 ② 実際に発生した事故及びヒヤリハットの質による5段階評価及び対応方針について、事故対策部会、ユニット会議、研修等をおして理解を深める。(変更)

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域との繋がり構築
現状と課題	長年、限られた行事によって地域との交流を続けているが、それ以外では地域との交流の機会が少なく、地域の福祉ニーズの把握が不十分である。また、グループホームは、地域移行を促進する受け皿としての役割に加え、障がい者の地域生活を支える場として、地域との関係性の醸成が課題となっているため、清風園及びグループホームへの地域の理解を深め、地域活動の拠点としての役割を果たしていく必要がある。
取組の方向性	① 地域の他事業所との連携を強化するとともに、地域の一員としての役割を利用者と共に考える。(継続) ② 地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるように環境を整えるとともに、地域の行事に参加し交流の機会を確保する。(継続)

実施施策	地域拠点としての体制の検討
現状と課題	大田市内には短期入所事業所が少なく、緊急時の受入れについて重要な役割を果たす必要があるが、特に障がい児について潜在的な短期入所の利用ニーズが見込まれるため、障がい者の施設でどのように障がい児を受け入れていくか、今後検討が必要である。
取組の方向性	① 大田市から依頼のある緊急時の受入れについては、園としての方針を共有した上で受入れの強化を図る。 ② 障がい児の受入れに当たって解決すべき課題等について、保護者、相談支援専門員等と協議を行う(変更)

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用率の維持向上
現状と課題	<p>施設入所支援については、突発的な怪我や高齢化による入院、特養等への移行による退所等で空床が生じる可能性があり、生活介護についてはニーズ把握が難しいが、利用率を維持できるよう新規利用者の確保に努める。</p> <p>また、グループホームは利用者の高齢化による身体機能の低下が進む一方、大田市内には新たな利用希望者が少なく、利用率が低迷する恐れがある。</p>
取組の方向性	<p>① 施設入所支援について、利用者の異常の早期発見や疾病予防など健康管理を強化し、入院等を減少させることで施設入所の利用率を維持向上させるとともに、退所者ができた場合は、速やかに入所ができるよう調整を図る。また、身体障害者の受入体制を整備し、入所待機者に対しては日中一時支援、短期入所等の利用を促し、入所に向けた準備を行う。(変更)</p> <p>② 生活介護について、利用者本人のできることや強みを把握し、興味を持って楽しく取り組んでもらえるよう充実を図り、利用者を選んでもらえる日中活動を実施する。また、相談支援事業所等への意向確認を行い、新規利用者の確保に努める。(変更)</p> <p>③ グループホーム利用に係る意向調査を出雲市、江津市等近隣市町村の事業所等に対して実施し、利用ニーズを把握する。(新規)</p>

実施施策	コスト意識の醸成
現状と課題	<p>コストについて情報発信の機会が少なく、職員のコスト意識が薄れている。不必要なランニングコストを抑制するため、費用等について定期的に情報発信を行い、現状を共有しながらコスト意識を醸成する必要がある。</p>
取組の方向性	<p>① 定期的に各委員会や部会をとおしてランニングコスト等に係る情報発信を行い、職員のコスト意識を強化する。(変更)</p> <p>② 清風園とせいふう、グループホームで必要な日用品の購入を一元化し業務の簡略化やコストの削減に繋げる。</p>

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	ハード面における維持管理
現状と課題	施設は、長期大規模修繕計画に基づき維持管理を行うことになる

	<p>が、現行の課題や改善点等を整理し今後を見据えた修繕計画を立てる必要がある。</p> <p>また、グループホーム及びせいふうについては、当面の間は現定員を維持しながら圏域の動向やニーズを探り、第5期中期経営計画の最終年度である令和7年度にあり方を検討し、第6期計画期間中にその検討結果を反映させることとする。</p>
取組の方向性	<p>① 清風園は改築から16年が経過し、突発的な大きな修繕も見込まれるため、大規模修繕計画に基づき維持管理を行う。また、せいふうは築19年が経過しており、建物、設備等の老朽化が目立つが、大規模修繕計画の対象外となっているため、事務局と現状と課題を共有し、今後の方向性を検討する。(変更)</p> <p>② 老朽化したグループホームなずな寮は、圏域内の他法人の動向に注視しながら、次期中期経営計画における整備についての方向性を検討する。</p>

実施施策	事業展開の方向性の検討
現状と課題	<p>大田市内には短期入所事業所が少なく、緊急時の受入れについて重要な役割を果たす必要があるが、特に障がい児について潜在的な短期入所の利用ニーズが見込まれるため、障がい者の施設でどのように障がい児を受け入れていくか、今後検討が必要である。また、入所者の重度高齢化が進み、入院や退所による空床が増加しており、次期入所候補者を複数名確保しておく必要があるが、男女で申込人数に偏りがある上、将来の備えとして申し込んでいるケースも多い。</p>
取組の方向性	<p>① 障がい児の受入れに当たって解決すべき課題等について、保護者、相談支援専門員等と協議を行う。(再掲)(変更)</p> <p>② 現入所者について、シミュレーションを行って退所時期、退所人数等の見込みを把握するとともに、定期的に入所待機者の意向を確認し、入所候補者を確保する。(変更)</p>

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	自己評価によるサービスの質の向上
現状と課題	<p>令和3年度から各事業について第三者評価を受審したが、令和5年度から再開した自己評価の結果について時系列で分析し、サービスの質の向上につなげる必要がある。</p>
取組の方向性	<p>① 毎年度自己評価を実施し、評価結果に係る分析を行う(変更)</p> <p>② 自己評価により明らかになった改善項目について、事業計画に定</p>



	めて計画的に改善を図る。(変更)
<b>実施施策</b>	実践理念に基づいた支援の実践
<b>現状と課題</b>	令和 3 年度に清風園実践理念及び行動目標を定め、職員が目指すべき方向を明確にしたが、今後は実践理念及び行動目標に基づく具体的な取組を実践する必要がある。
<b>取組の方向性</b>	① 清風園実践理念及び行動目標に基づく取組について、サービス向上委員会を中心に検討する。(変更)

## 3 目標利用率

事業名	定員	実績値		見込	目標値	
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
施設入所支援	80名	98.7%	98.4%	98.5%	98.5%	98.5%
生活介護	80名	100.7%	98.1%	96.0%	98.5%	98.5%
短期入所	10名	27.3%	24.8%	30.0%	32.5%	35.0%
共同生活援助	18名	97.4%	97.4%	92.0%	96.0%	96.0%
せいふう (生活介護・通所介護)	20名	70.2%	68.1%	75.0%	75.0%	75.0%
相談支援 (計画作成件数)	-	月18件	月17件	月18件	月18件	月18件
相談支援 (モニタリング件数)	-	月34件	月32件	月31件	月31件	月31件